



平成 29 年 4 月 10 日

各位

会 社 名 株式会社フジ
代表者名 代表取締役社長 尾崎 英雄
(コード番号 8278 東証第一部)
問合せ先 上席執行役員
経営企画担当 松川 健嗣
(電話番号 089-922-8112)

再発防止策の進捗状況に関するお知らせ

当社および株式会社フジ・トラベル・サービス（以下、「フジトラベル」という。）は、フジトラベルで発生しました不適切な会計処理（以下、「本件」という。）を受け、平成 28 年 4 月 25 日付「調査委員会の調査結果に基づく再発防止策および支援等に関するお知らせ」において公表しました再発防止策の進捗状況を下記のとおりご報告いたします。

今後も引き続き、グループ全社をあげて再発防止策の実施を継続し、信頼の回復に努めてまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

1. フジトラベルの再発防止策

(1) 誠実性および倫理観を持った組織風土への改革とリスクマネジメント

フジトラベルは、コンプライアンス重視の基本方針を示すため、平成 28 年 4 月に代表取締役社長が全従業員に向けて、コンプライアンス重視の基本方針を宣言し、また、5 月に営業的視点に重きを置いた行動基準を見直し、社内規程・規則の遵守や社会規範の尊重を重視した「株式会社フジ・トラベル・サービス行動基準」に改定し、全従業員に浸透させています。

さらに、5 月より社内にある既存のコンプライアンス相談窓口に、フジおよびフジが委託している相談窓口（法律事務所）を加えることで内部通報制度を整備いたしました。コンプライアンス基準に違反する類似事案の発生を予防的に統制しています。

一方、人事処遇制度面においては、営業的側面からの人事評価に偏りが生じていたことにより、組織内において遵守されるべき管理業務の重要性が軽視され易い環境が作られていたことを鑑みて、組織風土を変革して行くために、コンプライアンス遵守、管理業務の遂行に重点をおき、それぞれの職務基準を明確にして、誠実且つ倫理的な業務遂行のウェイトと営業数値とのバランスをとった評価体系を平成 28 年度に策定し、今年度より運用を開始しています。

(2) 組織体制の見直しとそれぞれが担う役割の明確化ならびに人材育成

フジトラベルにおいて、平成 28 年 5 月 7 日開催の同社株主総会において、ガバナンス強化のため役員体制の見直しを行いました。

さらに、組織規程に基づいた正常な組織運営が行われていることをチェックする機関として、コンプライアンス推進室の新設および事業所長をコンプライアンス推進責任者に任命した上で、コンプライアンス推進室による各事業所に対する内部監査を実施し、内部統制委員会およびコンプライアンス委員会・リスク管理委員会に報告しています。

また、経営幹部をはじめ階層別ならびに職種別にコンプライアンス遵守の為の研修を順次実施しました。経営幹部に関しては、経営者としての知識、見識、意識の向上を目指した外部講師による研修や外部のセミナーへの積極的な参加、階層別・職種別では、経営層自らが講師となり統一した意識の醸成を図りました。

(3) 業務フローの見直しによる属人的業務の排除とマニュアルの整備

本件の発生原因は、営業業務を過度に優先し、業務手順やシステム導入時の対応等、適切な規程類・マニュアル等が未整備であり、業務管理に関する全社的な方針と手続きが不明確であったことが挙げられます。

営業業務および業務管理の適正性を確保し継続的に維持するため、自社企画商品、斡旋商品、団体旅行商品の3つの業務フローについて、外部の公認会計士からの助言も受け体系化し、事業所での運用を開始いたしました。また、基幹システムである「たびパレット」の使用ガイドラインおよび基本操作マニュアルを策定いたしました。

それぞれの業務フローが適正に行われているか、前述の公認会計士の補助も受けながら、事業所での内部監査をコンプライアンス推進室が行いました。

2. フジの再発防止策

(1) 組織風土と価値観の改革

当社は、本件を早期に発見し、適時適切な対応が取られなかったことを厳粛に受け止め、社内の会議体や社内報などを通じて、平成28年4月より経営トップがグループ全体に誠実性や倫理観が経営活動の前提であることをあらためて確認し、商売人としての誇りと良心に基づいた行動を意識し、全従業員が常に問題意識をもち、コミュニケーションを通じて問題解決する組織風土を目指すというメッセージを発信しました。

また、コンプライアンスとリスクに対する意識の浸透を図り、グループ全体の課題の解決および未然防止に繋げるため、各社からのコンプライアンス違反およびその対応策・再発防止策等についての月次報告を当社のコンプライアンス委員会に対しても報告することで情報共有する運用を行っています。

さらに、J-SOX法委員会において、当社およびフジトラベルの再発防止策の進捗および今後の予定の報告を受け、逐次状況をモニタリングしています。

(2) グループガバナンスの強化

本件において、フジトラベルの財務諸表に対するモニタリング機能が発揮されていなかったことを受け、グループ各社の管理損益、貸借対照表の帳票および差異分析フォームを共通化し、各社作成の報告書を社内だけでなく当社財務部と総合企画部へも毎月提出、確認する運用へ変更いたしました。

また、予防的統制を図るために、内部監査の支援業務を外部の監査法人に委託し、網羅的な監査ではなく、リスクを洗い出した後、対象科目等のある程度絞った上での監査を実施いたしました。

さらに、当社を含めグループ各社の監査役の役割および機能が十分果たされ、より積極かつ厳格な関与を徹底するために、全ての連結子会社の監査役を2名体制とすることと合わせて、外部講師による当社および各社の取締役ならびに監査役に対する研修を実施し、コンプライアンスや内部統制に対する知識、見識、意識の向上を図りました。

(3) グループ支援の見直し

当社に対するグループ各社からの問い合わせ窓口を整理し、各社から寄せられた問い合わせは、その回答と合わせて月毎に集約、次月の関係会社管理担当者会議にて各社と共有し、類似事象に関する認識や対応の格差を是正する取り組みを行いました。

また、各社が抱える問題点の洗い出しおよび共有や一元化することによる効果性の検討などを実施し、チェック機能の強化を図ります。なお、その一環として平成28年9月よりフジトラベルの営業所における売上金の回収を当社にて請け負っております。

以上